



1/5から2017年の授業（冬期講座）が始まりました。



センター試験が近い大坪さん

高3生になる江南富岡さん、湖陵佐藤さん、北陽伊藤さん

湖陵1年の牛木さんを見習って！



冬期講座中の小学生

田中杏奈さんがお土産を



1/10 中1、2年生の道コン

1/11 中3生の最後の道コン

都合が悪く一人で受験の諸君



19期生で放射線技師の住川さんからの差し入れ。

古川さんのお母さんありがとうございます。受験用キットカットにハッピーターン

〇〇まであと1日、こういう日が必ず来ます



1/14 終わる理特講

1/21 最後の土曜特講の歴史特講



1/29 入試までおよそ一ヶ月、土曜、日曜日を使って行なう計8回の入試直前ゼミが始まりました。一週間ずーっとになりますが、とにかくここでの努力は必ず将来に繋がります！

19期生の浦田君、新年の挨拶にとジュース60本とチョコレートと！

**★29年高校入試出願状況発表**  
27日、高校入試の倍率が発表になりました。予想通り、昨年とは反対に上位校の倍率が低く、下位校の倍率がかなり高くなっています。湖陵が理科科を含め+18、江南+26、北陽+8で合計+52で、昨年はこの3校で87名のオーバーでした。この3校は高専との併願が多いので、高専に抜ける分を考えると、定員割れ、もしくはそれに近い数字になるはずですが、  
一方、明輝は+47、東+53、工業+52、商業+28の合計180名の定員オーバーで、大変な激戦りとなっています。特に東高校は明輝高校からの出願変更も考えられますので更に厳しい状態になる可能性があります。  
工業高校、商業高校は学科間の移動ですから総数はほぼ変わりません。みんな同じこと（倍率の低い

ところを第一志望に)を考えると、安易に第一志望を変更しない方がいいのかもしれない。入試までまだ35日余りあります。覚悟を決めて1点でも多く採れるようにがんばるしかありません。  
釧路市内の学校でもインフルエンザや胃腸炎が流行し始め、学級閉鎖も聞かれるようになって来ました。受験生は寝不足や疲れが溜まっていて体力が落ちています。感染し易くなっているかもしれないので体調管理には十分注意して下さい。  
今年は雪が多く道路も歩きにくい状態です。塾の行き来にも注意が必要です。  
また、受験生以外で熱があったり、咳が出たりする生徒は、受験生への感染を防ぐため、無理して出席しないようにお願いします。

**★親の過干渉が子どもをダメにする！マミーより**  
過干渉とは、その名の通り、子供に対して干渉しすぎる事です。子供がやりたくないことでも、無理やりにでもさせたり、子供のことに干渉して、子供の気持ちを考えずに必要以上に色々口出しをすることです。  
同じように言われるワードに「親の過保護」もありますが、過保護と過干渉は違います。「過保護」は、子供の要望をやりすぎることに対して、「過干渉」は子供の望まないことまでやってしまうことという大きな違いがあります。しかし過保護が過ぎて、過干渉になってしまうというケースも少なくありません。  
過保護は自立ができないと言われますが、子供の望むことをしているのに、愛情を感じることができ、ある程度まで満たされると満足もするので、逆に自立が早くなるとされています。注意すべきは過干渉

の方なのです。  
過干渉な親は、自分がそうであることに気付いていないことが多いようです。親が子供のためと思っている行動が、子どもが望むものでなければ、心に大きな負担になっているのです。  
**過干渉な親の5つの特徴**  
1 子供の交友関係を把握する  
2 子供の気持ちを考えない  
3 子供の意見が自分と違うことが許せない  
4 自分と子供の境界線がない  
5 思い通りになると褒美を与え、うまくいかなければ罰を与える  
お父さん、お母さん、思い当たることはありませんか？子どもたちに「生きる力」を付けさせるには過保護、特に「過干渉」には要注意です。

28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		
火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水		
■共業定期テスト 受験生休息日		■入試直前ゼミ⑦ 一〇〇分特講		■入試直前ゼミ⑧ 一〇〇分特講 休塾				■高専入試 休塾		■鳥取西定期テスト(17)		■武修館入試 出願変更発表 受験生休息日		■推薦入学面接		■入試直前ゼミ⑤ 休塾		■入試直前ゼミ④		■入試直前ゼミ③ 休塾		■入試直前ゼミ②		■出願変更の受付締切 受験生休息日		■中学全学年学力テスト		■出願変更中間発表	

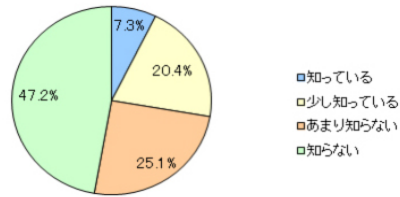
2月の予定

## 『中1ギャップ』

### 中学生の保護者の過半数は知らないが思い当たるフシはある

あなたは「中1ギャップ」という言葉を聞いたことがありますか？ 中1ギャップとは小学生が新中1生となったときに、学校生活や授業のやり方が今までとまったく違うため、新しい環境（学習・生活・人間関係）になじめないことから不登校となったり、いじめが急増したりするなどいろいろな問題が出てくる現象のことです。こういった現象について、中学生のお子さまを持つ保護者のかたはどのように見ているのでしょうか。

中1ギャップという言葉は中学生の保護者の過半数が「聞いたことがない」と回答せず、「中1ギャップ」という言葉の意味についてどのくらいのかたが知っているのか伺ってみました。すると、言葉自体を聞いたことがあるかたは半数以下。そして、言葉の意味まで知っているとは答えたかたは3割以下でした（図）。



しかし、想像するにどういう意味だと思えますか？とお聞きすると、「環境が変わってなじめないこと」「小学校の感覚が抜けない」「中1と小学6年生との生活スタイルの違い」などという回答が集まり、（ああ、このことかな？）と容易に想像はつくようです。

お子さまが中学校に入学した際、多かれ少なかれ「中学校は違う」と保護者のかたが感じていたということが言えるでしょう。

具体的にどういった点が異なるのか、どういった理由で子どもたちが小学校と中学校の差を感じて中にはなじめない子が出てくるのかお聞きしてみたところ、保護者の目から見た「中学生」「中学校」というものが浮かび上がってきます。

#### 勉強面では、早く・厳しく・明確に結果が出てくるのが原因？

●英語が入ってくる・教科担任制になる・定期テストがある・定期テストで順位が出るからでは？

これらの点は、たくさんの保護者のかたから寄せられています。小学校でも英語の授業はあるものの、中学校では文法を習いますし、テストの点数や成績もつくのです。そして教科ごとに先生が異なるため、授業の進め方やノートのとり方もそれぞれ違いますから、それらに慣れることも必要です。「先生待ってー黒板まだ消さないでー」は中学校では通用しないということでしょう。

●それまでは友達との学力差などが見えないし、感じられなかったが、突然デジタル化され、順位などが出て自分の実力を知り驚いてしまうのではないかと？

学校によって違いはありますが、定期テストの点数がしっかりつき、そのほかの観点別評価も加わってそれが公立高校入試の合否判定に用いられる内申点に直結する、という地域がたくさんあります。小学校の通知表では「よくできている」「うちの子はできるほうだ」と思っていたところが、定期テストで想像に及ばない結果や順位を知り、ショックを受けるということも少なくありません。

●公立中学校の場合、小学校へ「ここまではきちんとした学習を身につけておいてください」とのお達しがあると聞きました。けれどそれは学校任せのことではなく、家庭でもきちんと確認していかなければならないことだと思います。子どものそのような状況に気付かない親もいるのが問題なのではないのでしょうか？

もう中学生になるんだし、ということで勉強のことは細かくは確認せず、学校の勉強も校外学習もお子さま自身に任せて手を離します、というご家庭が増えるのが進級時期でしょう。しかし、小学校から中学校へ変わる時期は小学校段階の総仕上げとも言える時期。苦手が残っていないか、得意なことは何か、学習習慣はどの程度身につけているのかというポイントが具体的にわからないと、中学校で困ったことがあっても子どもの相談にも乗れませんし、子どもも保護者に相談しづらいです。思春期・反抗期でもありますから「どうせお母さんはわからないでしょ！」「お父さんは知らないくせに」となるわけです。

●中学校に入り、急に授業の進度が速くなるような気がする。教師側も中学生になったのだから、と自立して自主的な学習を求められること。成績が中間、期末考査で順位が出されることが原因としてある、と思います

中学校では小学校ほどはあれやこれやと手を出すことはしませんし、基本的に自主的に勉強する姿勢を求めます。具体的には「わかるかな？」と先生が声をかけてくれるのを期待する・待つのではなく、自分から「先生、ここがわかりません」と先生に質問に行くことが求められるということなのです。

#### 心身の成長が著しい一方で忙しく、自由度の減る学校生活が疲れやストレスに？

●毎日制服を着て通い、常に校則が厳然とあり、部活動では厳しい練習・怖い先輩もいる。すべてにおいて優しく守られていた小学校生活と、急に「自立」を求められる中学校生活には、かなりの違いを感じると思う。それらを嬉しく思う子と、違和感のある子とに分かれるのではないかと？

「自分でなんとかする」場面が増える中学校。校則が増え、先輩との上下関係で守るべきルールなども増えます。小学校までの自由さがなくなり「え、こんなことまで細かく決めるの？」と感じる子もいるでしょう。今までなかった緊張のなか、自分で考えて行動する場面が増えて「どうしたら良いのかわからない」ことがストレスになるということでしょう。

●登校手段の違いや、部活の朝練などで早朝から登校しなければならず、疲れがたまりやすい。自分のキャパシティーを超えない部活選びや、家族のサポートが必要では

●成長期で、ホルモンバランスの乱れがある時期にも関わらず、塾通いやクラブ活動で忙しく、睡眠不足による体調不良があるような気がします

いざ中学校生活がスタートすると、体力面で苦勞する子は少なくありません。「部活が始まったとたん、ついていけなくて帰宅後すぐ寝てしまう」「眠そうでつらそうな子どもを目の前にして勉強しなさいとはかわいそうで言えない」など、新学期を中心に当サイトの教育相談室でもそういった相談が散見されます。本人がやりたいことに挑戦させてあげたいものですが、本当に練習がきついという部活動はあります。本当にできそうか、その部活動に入ったら、一日・一週間の生活はどのように変わるのかを想像して検討するには家族のサポートも必要でしょう。

#### 人間関係は、部活動のタテ関係・新しい友達で激変。メールやケータイでの付き合い方も気になる点

●部活動が始まって、大幅に環境が変わるので特に人間関係を上手くやれない、コミュニケーション力が不足している子は、まいてしまうのかもしれないと感じています

先輩とのタテ関係は、小学校までは「優しくしてくれる上級生」という関係しかなかったのが、「尊重すべき・自分を指導してくれる存在」に変化します。そこでの差に戸惑うというのは容易に想像がつかますね。また関わる人が増えるため、いろいろな人と付き合う経験が少なかった子は、疲れを感じることもあるようです。

●思春期を迎え親に反発を感じるようになった時の支えとなるのが友人で、そこで気の合う友達と進学を機に離れてしまい、新しい友達ができなかった場合にはかなり深刻な状況になるのでは

子どもたちにとって、「友達」の存在はこの時期グンと大きくなるものです。そこで頼りにすべき「友達関係」を作り直したり一から作り上げたりしていくことをストレスを感じる子もいるでしょう。新しく知る他小学校からの子との人間関係をどう作っていくのか……そして「友達」ができるか……保護者のかたも中学校進学の際、同じようなことを感じたのではないのでしょうか。

●携帯メールによる行き違い

携帯電話を持つ子が増えることから、ケータイメールのやりとりや文面、だれが何をだれに送ったなどのトラブルについての声も寄せられました。中学校に上がったからだということが直接の原因ではありませんが、ケータイを持つ子が増えることで情報が伝わる範囲が広がったり、メールの数が増えたりします。その結果、ケータイにとられる時間やトラブルが目立つようになるということでした。携帯にかかわらず、ネットやメールの使い方が人間関係にも深くかかわってくるため、使い方には注意が必要です。

以上のように、中学生の保護者は中学校生活についていろいろ気づきがあるようです。ギャップの早期発見・早期解決がその後の中学校生活の充実度を定めるものですから、中学校進学を控えたご家庭では、今一度我が子を見つめ直したり、進学先の中学校の情報を集めたりして準備しておくといよいでしょう。特にお子さまがギャップを感じず、またうまく自分で対処していければそれに越したことはありません。子育てがひと段落する時期ではありますが、「何かあったときに受け止めて支えになってくれる存在」としての保護者の役割はしっかり果たしてあげたいですね。

Benesse 教育情報サイト

アンケート期間 2011/9/14～2011/9/20 回答者数：1,981人

アンケート対象：本サイトメンバー 中学生の子どもを持つ保護者